

ビックリ 蜂洞の蜜採り体験

10月25日、豊玉町田地区で「蜂洞の蜜採り体験」が行われ島内外から約30人が参加し、対馬の自然が凝縮された濃厚な蜂蜜を堪能しました。

農林業とミツバチの関わりについての知識を深めてもらおうと対馬市認定農業者協議会や対馬地区青年農業者協議会などが主催したもので、参加者は、網の付いたハチよけの麦わら帽子をかぶり、重箱型の蜂洞から細い棒状の道具を使い、巣を慎重に少しずつ切り取り出していました。この日のために福岡から来られた山田智子さんは、「どのように蜂蜜が採られているか興味があったので来ました」と話してくれました。



いりやき鍋に舌鼓 内山地区収穫祭

11月16日、厳原町内山で内山地区収穫祭が行われ、早朝から沢山の人々が訪れました。^{じねんじょ}

地区で収穫された大根や白菜、自然薯など新鮮な農産物や、しいたけなどの林産物が販売され、会場は大賑わいでした。特に内山風いりやき鍋のコーナーは、多くの人が詰めかけ、晴れ渡る秋空の下、絶品の味に舌鼓を打ちました。

もちつき体験のコーナーでは、「ヨイショ、ヨイショ」と、子供がリズムをとり、昔ながらの餅つきを体験していました。会場から少し離れた畑では、イモほり体験も行われ「大きいのが取れたよ」とサツマイモを手にした子供が、うれしそうに収穫を喜んでいました。

り体験も行われ「大きいのが取れたよ」とサツマイモを手にした子供が、うれしそうに収穫を喜んでいました。

感謝の気持ちが日本一 ソフトボール投げ

対馬市厳原町久根田舎の初村利己さんが、大分市で開催された第8回全国障害者スポーツ大会、ソフトボール投げで見事、初優勝を飾りました。「両下肢不完全の20歳未満ソフトボール投げ」の種目に出場し、45.38メートルを投げ、2位の選手に13メートル以上の大差をつけ、ダントツで勝利しました。

初村さんは、生まれつき両足が不自由で、歩行具を着用しながら、現在は、美津島町の対馬老人ホームに勤務しています。県内の離島から全国大会に出場した選手は初村さん一人、昨年の準優勝の悔しさをバネに一年間、ベンチプレスなど基礎トレーニングや投げ方の練習を一生懸命行い、一番上を狙っていました。「何より指導して下さった方や、応援をしてくれた多くの方の期待に答えることができホッとしました」と笑顔で話す初村さん、感謝の気持ちが日本一に導いてくれたようでした。来年はV2を目指して更なる飛躍を期待しています。



対馬一の紅葉を満喫 2008 上対馬もみじまつり

11月16日、もみじ実行委員会主催による「2008上対馬もみじまつり」が、もみじ街道・舟志（上対馬町内）をメイン会場に行われました。

舟志愛鼓連の力強い太鼓演奏が山々に鳴り響き、舞踊やグリーンキッズによるハンドフラワー、カラオケ大会で盛り上がりました。メイン会場では、たくさんの出店も並び、特産品の販売が行われ大盛況でした。

赤や黄色と色とりどりに色づいた紅葉を背に、携帯電話で記念撮影を行い深まりゆく秋の景色を楽しんでいました。

「なぜ?」「どうして?」サイエンスワールド 2008 IN 対馬

科学の楽しさを知ってもらおうと、長崎大学教養学部の実行委員会が11月8日、美津島体育館と文化会館で「サイエンスワールド 2008 IN 対馬」を開催しました。

イベントは、会場を「感性科学ゾーン」「生命・健康・生活科学ゾーン」「物質科学ゾーン」「環境・エネルギー科学ゾーン」と、4つに区切り、それぞれ37種類の実験が行われました。

子供たちは、脱脂綿から糸を作り、液体窒素でバナナを冷やすなど、様々な実験を体験し、驚きの声が時折上がっていました。

蔵原小学校5年生の阿比留翼くんは、「液体窒素の容器の中にゴム風船をつけると風船がしぼみとても不思議。でも色々分かってとってもおもしろかったです」と、楽しそうに話してくれました。



元気ハツラツ グラウンドゴルフ大会

第5回対馬市老人クラブグラウンドゴルフ大会が、11月11日美津島町あそびパークで開催されました。

少し肌寒い日にもかかわらず、競技開始前からコースで入念に練習を行うほど力が入り、各支部から5チーム(1チーム6人)が出場し、30チームで熱戦が繰り広げられました。

ホールインワンを38名が達成し、腕前を十分発揮するなか、「今日は、いつものように調子がでらんばい。むずかしいのー」と首をかしげる姿も見受けられましたが、皆さん、ハツラツとしたプレーで、スポーツの秋を楽しんでいました。

大会結果 団体の部 優勝 = 蔵原:久田道喜楽会 A / 2位 = 上対馬:豊 A / 3位 = 美津島:樽ヶ浜

個人の部 優勝 = 斉藤正一(豊玉:横浦) / 2位 = 武末光子(上対馬:豊 A) 3位 = 小島五郎(美津島:鶏鳴第一 B)

大賑わい いきいき豊玉まつり

11月2日、「いきいき豊玉まつり」が「豊玉文化の郷」駐車場広場で行われ、夫婦や家族連れなど多くの人を訪れました。

いのしし鍋500杯が無料で振る舞われ、短時間でなくなるほど賑わうなか、地元野菜や鮮魚の即売、各種バザー、そば打ち体験など盛り沢山の催し物が行われました。

ゲームイベントの三輪車競争では、ちびっ子が一生懸命ゴールを目指し勝敗を争う姿に、周りから「がんばれー」と温かい声援が飛び交い、お年寄から子供まで楽しいひとときを過ごしていました。



心育む なかまはたからコンサート

市内の低学年を対象とした青少年劇場「なかまはたからコンサート」が、11月10日から3日間、対馬市交流センターなど市内3カ所で開催されました。佐世保市出身で、NHK「おかあさんといっしょ」3代目の「うたのおにいさん」としてお茶の間で人気者の「たいらいさお」さんが、「なかまはたから」をテーマに、友だちや先生、まわりの全てが大事な仲間であり宝物であることを、歌を通し児童に語りかけてくれました。児童は、歌いながら手で表現を行う「ドレミのうた」など、目を輝かせながら一生懸命、コンサートに参加していました。どの

会場も、割れんばかりに元気いっぱいに歌う児童の声が、会場に響き渡り、思いやりのある優しい心が育っているようでした。

目で見、耳で聞き 心に感じる

本物の舞台芸術体験事業合唱公園

11月5日、佐須奈小中学校で「本物の舞台芸術体験事業合唱公演」が開催されました。

このコンサートは、児童がすぐれた舞台芸術を鑑賞すると共に、合唱の実演指導や共演参加を行うことで芸術を愛する心と、豊かな情操を養おうと文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」によって実施されました。男声合唱の力強さを演奏した「ソーラン節」、女性のやさしい声で輪唱風に演奏した「ほたるこい」「ほ・ほ・ほ」とホテルの光を歌で表現していました。また猫の2重唱では、オスネコとメスネコの間をコミカルに「ミャウ」と鳴き声だけで歌うなど、生徒から笑いがこぼれていました。

フィナーレは、合唱団と佐須奈小中学校生徒、この日鑑賞に訪れた東部中学校の生徒も参加し「ビリーブ」を合唱、それぞれが思い出に残る時間を過ごしていました。

佐須奈中3年の梅野衣央梨さんは、「生で聞けて、迫力がありよく声が響いていました。パフォーマンスもとりにれてとてもおもしろかったです」と話してくれました。



ハッピー ハロウィン

子供たちにハロウィンを体験してもらい異国の文化に触れてもらおうと「地域で子育てを楽しむ会」が「みちくさウォークラリー」を実施しました。

ティアラ前には、思い思いに仮装した小さなお化けや魔女たちが、「ハッピーハロウィン」と声をかけ、厳原市内の様々な場所に出現していました。ゴールの半井桃水館では、ALTとのふれあいやコンサートが行われ、子供から大人まで西洋の祭を楽しんでいました。

安全の光を絶やさず 海上保安庁長官表彰を受賞

厳原町東里の東秀行さんが灯台の明かりが消えていないか長年見守り続けてきた功績が讃えられ海上保安庁より感謝状が贈られました。

昭和63年3月から20年以上、自宅近くの阿須湾南防波堤灯台と阿須湾入り口の瀬を照らす照射灯の監視協力者として委託され、故障がないか監視を行い、漁船の安全航行に寄与しました。

今まで落雷や台風などで明かりが消えているのを見つけ、海上保安部に連絡したこともあり、「灯台は漁船の安全航行に欠かせない、今後も監視を続けていきたい」と話してくれました。



県内トップレベルが集結 第53回 県展移動展が開催



第53回県展移動展が11月6日から4日間、対馬市交流センターで開催されました。

日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、デザイン計7部門の入選のうち103点が展示され、対馬からは工芸部門で美津島町雑知の原嶋左千男さんの硯「清風明月」がK T N賞を受賞しました。

また、写真部門でも上対馬町河内の木寺住雄さんの「港」、上対馬町網代の佐伯哲生さんの「微笑み」、厳原町東里の高松定喜さんの「畑かえり」、上対馬町古里の宮原勝彦さんの「あ・・・、いただきます」、美津島町雑知の吉野満夫さんの「ヒジキ解禁」が入選しました。訪れた人々は、県内トップレベルの優れた作品を直接鑑賞し、素晴らしい作品の数々に圧倒していました。

将兵80数人の慰霊をしのぶ 小茂田祭

1274年の文永の役、蒙古軍兵約3万余り、軍船約900隻を迎え撃ち壮絶な戦死をした、対馬の守護代・宗資国と家臣の慰霊する大祭が11月12日、小茂田浜神社で行われ多くの参拝客で賑わいました。

地元中学生が、命婦の舞や浦安の舞の奉納を神社で行った後、鎧、兜、刀を身に固めた武者や白装束姿にふんした氏子ら約50名が、古戦場とされる小茂田浜まで練り歩き、勇敢に戦った将兵の霊をしのびました。

お旅所では、神官が蒙古軍が攻めてきた沖合に向かい、三度弓を引き、武者姿の氏子らが「エイ、エイ、オー」とときを上げていました。



比田勝幼稚園でお魚料理教室

11月20日、比田勝幼稚園でお魚料理教室が行われ園児や保護者、約70名が参加しました。

魚料理の普及と食への感謝の気持ちを育んでいこうと園が企画したもので、上対馬漁協青壮年部の有志が協力し魚を提供、保護者に調理方法を指導しました。

保護者は、ヒラスやイカ、太刀魚、アジを三枚にさばき、刺身に挑戦、珍しそうに園児が見つめるなか、刺身の切り方、盛り付け方を習っていました。

食事は、魚の煮付け、お吸い物も振る舞われ、さばいたばかりの新鮮なお刺身を、おいしそうに親子で食べていました。

比田勝の谷本真弓さんは「主人からさばき方を教えてもらっていたが、魚を三枚におろすのは、なかなかむずかしいです。うまくさばけるようになって、子供に魚のさばき方を教えたい」と話してくれました。

国境警備を中学生が体験

比田勝海上保安署で10月15日から17日の3日間、比田勝中学校3年生、小宮礼央くん、井川俊介くん、峰溪介くん3名と南陽中学校、1年生小田智彦くんが職場体験をしました。

この体験では、心肺蘇生法等の救急講習、ロープの結び方、模擬立入検査訓練など海の警察官として必要な知識や訓練を行いました。巡視艇「あきぐも」による体験航海では、実際に舵を握り操船を体験、レーダーや双眼鏡を使用し見張りをを行い国境警備を行いました。

体験を終え生徒からは「今回の職場体験学習で、巡視艇を操船したり、心肺蘇生法を受講したりと大変良い経験ができました」「海上保安庁の仕事について、丁寧に教えてもらい、いろいろな仕事があることが分かりました」と話していました。



安全な交通社会へ 交通指導員研修会が開催

市や地域のイベント、園児、児童などの通学の安全を確保する傍ら、交通安全に対する教育や、指導を行なう交通指導員の研修会が11月5日、美津島文化会館で開催されました。

研修会は、歩行者の誘導の仕方や誘導時の立ち位置、警笛や誘導旗の使い方など指導員としての心得を受講しました。

瞬時の判断で交通事故やトラブルを未然に防ぎ、私たちに安心を提供する重要な役割を担う交通指導員。一人ひとりが、交通ルールを守り、マナーを実践することで交通事故防止につながります。皆さんも、交通安全に対する理解を深め事故にならないように努めましょう。